



だい 19 集 しゅう

すてきなまちに

さ べつ まな
～コロナ差別から学ぶ～



ねん ど じん けん さく ひん
2022年度人権作品

や す ちゆう ねん やまざき こ はる にゆうせん さく ひん
野洲中3年 山崎 心春さんの入選作品

や す し や す し きょう いく いん かい や す し じん けん けい はつ すい しん きょう ぎ かい
野洲市・野洲市教育委員会・野洲市人権啓発推進協議会

ねん れい わ ねん がつ はっ こう
2023年(令和5年)3月発行

野洲市「人権尊重のまち」宣言

人権とは、人間が幸せに生きていく権利で、すべての人が生まれながらにして持っている基本的な権利です。

わたしたちは、「人権の共存」を基本にかかげ、人権を侵さず、侵されず、たがいに助け合い、明るく住みよい地域社会を築きます。

そのために、わたしたち一人ひとりが人権の尊重と擁護について正しい理解と認識を深め、誰もが大切にされ安心して暮らせるまちづくりへの実践を誓い、ここに野洲市を「人権尊重のまち」とすることを宣言します。

平成18年2月25日

野洲市

もくじ

コロナ差別から学ぶ	1～6
2022年度(令和4年度)人権尊重をめざす人権作品紹介	7～10

はじめに

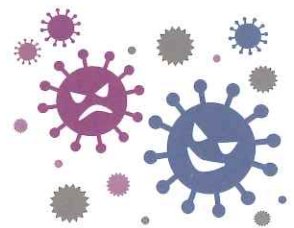
新型コロナウイルス感染症が流行して3年目となりました。

感染の拡大だけでなく、感染者などへの差別や偏見という点で深刻さを増しています。流行が始まったころ、新型コロナウイルス感染症は「特別な病気」でした。

診療にあたった医療関係者への差別は各地で人権問題となりました。

「目の前の患者を救う」という使命感で仕事をしたことが、自分や家族が差別に合うという不合理な結果になりました。実際に看護師が退職したケースも見られたようです。政府や日本赤十字社は医療関係者への差別はコロナウイルスを広めることになると訴えています。

正しく理解して、差別をなくす取り組みをしましょう。



2023年(令和5年)3月

コロナ差別から学ぶ

今回はコロナ差別から学ぶことにしました。前回のハンセン病問題と同じような人権侵害を受けることがあります。

なぜ、コロナの場合は病気が治っても、誹謗中傷されたり、排除されたりするのでしょうか。コロナ差別の人権問題の実例を見ていきましょう。

1. 新型コロナウイルス感染症により起こった問題

ケース1：コロナにかかって差別を受けた



●なぜ、ママ友から、「登園したらだめでしょ。」と言われたのでしょうか。

コロナにかかってしまった家族が2週間ほどホテル療養し、家族全員が数回のPCR検査後、すべて陰性となり、保健所からも外出許可が出ました。

母が子どもと一緒に幼稚園に登園した時、ママ友から「コロナの子どもが登園したらだめでしょ。」と直接言われ、母は「これがコロナ差別！」と思ったそうです。



ケース2：濃厚接触者から不登校になった

●なぜ、「濃厚接触者だった」と言った途端、避けられるようになったのでしょうか。

学習塾がクラスターとなり、小5児童が濃厚接触者となりました。

そこで、2週間の自宅待機の後、PCR検査で陰性であったので、元気よく



登校しました。クラスの友だちに「自分は濃厚接触者だった」と言った途端、子どもたちから、「触らないで」と言われたり、無視されたりされ、いじめ状態になり不登校になってしまったそうです。

ケース3：病院などではたらく人とその家族への拒否

●なぜ、病院ではたらく人やその家族は、避けられるのでしょうか。

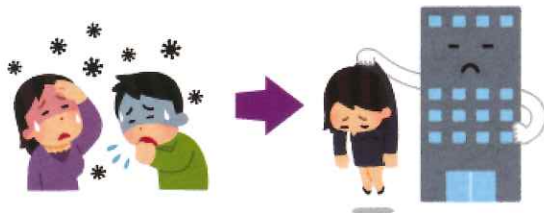
コロナ感染者がいる病院では働いている人の子どもが、集団登校の集合場所にいったら、「みんなにうつるから、ここにはこないで。」と拒まれました。



2. 「コロナ差別」という偏見と差別(人権侵害)

先のケース1～3のような人権侵害にあたる事例以外にも、下記のような実例が報告されています。(偏見や差別を防止するための規定が設けられました。)

①



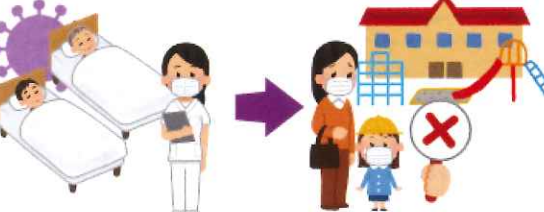
感染したことを理由に解雇される。

②



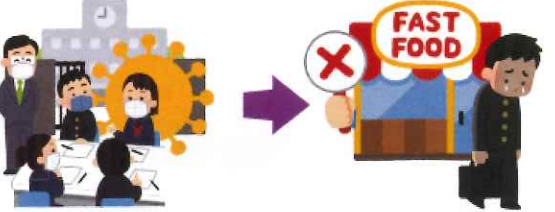
回復しているのに出社を拒否される。

③



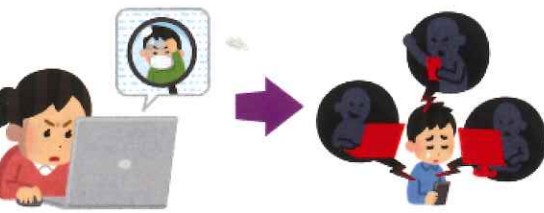
病院で感染者が出たことを理由に、子供の保育園等の利用拒否される。

④



感染症が発生した学校の学生やその家族に対して来店拒否される。

⑤



感染者個人の名前や行動を特定し、SNS等で公表・非難される。

⑥



無症状・無自覚で訪れた店舗から謝罪や賠償を強要される。

(内閣官房 新型コロナウイルス感染症対策推進室)

3. ワクチン未接種の人への偏見と差別

- ① ワクチン未接種の人を出勤させなかったり、仕事をやめさせたりする。
- ② ワクチン未接種の人を別の部屋で仕事させる。
- ③ 「ワクチンを打たないと営業から外す」など接種を強制する。
- ④ 「すぐに接種の予約しろ！」とその人を避ける。

ワクチンは私たちを守る一つの道具です。打つことが目的ではないにもかかわらず、未接種の人は差別される対象となっています。

ワクチンに対する様々な考えを持っている人や、アレルギー体質などで打ちたくても打てない人もいます。

「なぜ、ワクチンを打たないのか。」と未接種の人に言うことは強制となり、差別になります。



4. コロナ差別と同調圧力

① 日本だけにある特有な「同調圧力」

コロナ禍において、日本では周囲の目を気にして、過剰に反応して人と同じことをして安心する傾向が強いといわれています。例えば、ほとんどの人がマスクをしているとマスクを外すことが怖くなり、マスクをしていない人を非難してしまいます。そのことは異質なものを排除してしまうことであり、結果として差別してしまうこととなります。

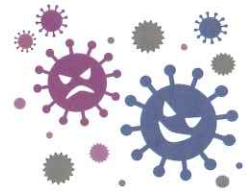
② 日本だけにある「世間」

「世間」とは、過去・現在・未来において自分とかわりがある人たちの集まりです。

→ いっしょの学級にいる友だちや学校の先生、近所の人、親戚の人たち、同じ職場の人

※「世間はみんな同じことをする」という暗黙のルールがあります。その「世間」の強さが「同調圧力」をさらに生み出していくというしくみになっています。例えば、人と違う事をすれば、いじめの対象となるケースなどです。

5. コロナ差別とあらゆる人権問題



①あらゆる差別に共通すること

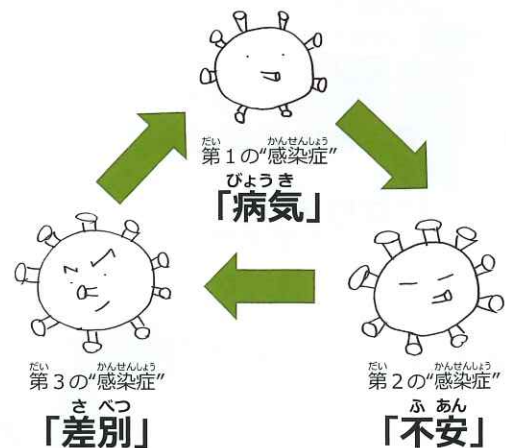
これまでの部落差別問題をはじめとする様々な差別問題である外国人差別問題、障がい者差別問題、LGBTQ+、ハンセン病差別問題、そして、今回のコロナ差別問題においても共通するものがあります。

- ア、避けられる。排除される。隔離される。
- イ、少数者(マイノリティー)が差別を受ける。
- ウ、感染者に接した人が避けられたり、除外されたりする。
- エ、差別されるのではないかと思い、身元を隠す。(感染したことを隠す。)
- オ、よく知らないことで不安になり、勝手に差別する。
- カ、差別の被害を受けても、言えない。

※新型コロナウイルスにかかる人権侵害は決して新しい差別ではありません。福島原発事故では、被災地ナンバー車の締め出しがあり、今回のコロナ禍では、感染者が多い東京ナンバー車に対して嫌がらせなどがあり、その人々が差別を受ける対象となりました。差別は形を変えて次から次へと繰り返されています。

②差別のメカニズム

感染症によって差別が起きるメカニズムを日本赤十字社が「3つの顔」として説明しています。「病気」と「不安」と「差別」が互いに負のスパイラルに陥り、不安や差別も大きくなっていくという感染症の典型的な差別のパターンです。



(日本赤十字社「負のスパイラル」から)

コロナ禍のはじめの時には他県のナンバーの車への攻撃や、「自粛警察」など不安だけではなさそうです。『人に迷惑をかけてはいけない』という日本特有の「世間」に加え、感染対策をすべきだという「同調圧力」が、ゆがんだ正義感を生み出し、感染者に予防が不十分であると非難するという連鎖なのです。

6. コロナ差別から学び、わたしたちができること

① 市内の学校の先生の感想から

コロナの感染症対策はもとより、コロナによる差別が起こらないような工夫等をしたという感想を述べられています。

インターネットやテレビなどの情報は、受け取る人のとらえ方で大きく違って来たり、すべてが正しいものではありません。だから、子どもたちには、正しい情報を正しく共通理解できるよう、休校明けや、地域の状況に合わせてスライドなどで一斉指導をしてきました。

保護者や子どもたちの話を聞いていると、「～らしいよ。」と事実とは違った内容を聞くこともありました。間違った情報が独り歩きしてしまうことはこわいなと思いました。

コロナが始まった最初、感染者の特定につながる問い合わせの電話が何件もあり、だれもが自分の身を守るために必死でした。正しい情報や経験の積み重ねで少しずつ整理され、混乱が落ち着き、差別的な考えはなくなっていくのではないかと思いました。わからないといって、むやみに恐れて人を非難したりするのは間違っているし、差別です。だから、正しい知識をもつことはとても大切だとコロナ禍での取り組みから思いました。



② コロナ禍を経験して、差別をなくすために私たちができること

このようにコロナによる感染症が流行ったはじめの頃は、コロナのことを知らない不安から、人をけなしたり、批判したりすることがひんぱんにありました。それがデマとなってSNS上に流され、差別を受けて苦しむ人が増えました。

そこで、差別をなくすために私たちができることは、

- ① 感染する不安を取り除く→感染予防のため、コロナのことを学びましょう。
- ② デマを信じない→だれがどのように伝えているのかを確かめましょう。
- ③ 正しい情報を知る→いろいろな立場の人の意見を聴き、自分で考えましょう。
- ④ 差別のメカニズムを知る→さまざまな差別問題などの人権研修をしましょう。
- ⑤ 差別をなくす行動する→「おかしいことはおかしい。」と声を出しましょう。

③ 人権研修(地区別懇談会)のキーワード「自分だったら…」

地区別懇談会等で次のような研修をしてみましょう。(小学生になって考えてみましょう。)

・ ようこさんとあきおさんときよみさんの3人が、学校から帰る途中の会話

あきおさん 「今日、休んでいるまさるさんは、きのう、せきをしていたので
コロナかな？」

ようこさん 「え、本当に？だれからうつったのかな？」

きよみさん 「……………」



- ①あきおさんの会話の中で差別につながることはありません。それは何だと思えますか？
- ②ようこさんの会話についてどう思いますか？
- ③まさるさんのことを話していますが、あなたがまさるさんだったらどう思いますか？
- ④あなたがきよみさんだったら、何と言ったでしょうか？

はじめはうわさ話です。そこに不確かなことがつけ加えられ話が広がっていきます。そして、誰かが別の人に伝えた時に、憶測だった話が本当のこのように伝わっていきます。この時に、だれかが不確かなことや不合理なことを指摘しなければ、このようにして差別が広がっていくのです。会話でのきよみさんは「重要な存在」と言えるでしょう。(コロナにかかったのが自分だったらという立場で考えましょう。)

～おわりに(差別を繰り返さないためにコロナ差別からも学びましょう)～

新型コロナウイルス感染症は、私たちが今まで経験したことの無い感染力の強い病気で、誰もがかかる可能性があります。たとえかかったとしても、患者やその家族が悪いのではないという点は共通しています。しかし、現実はいままでの感染症による患者やその家族に対して差別や偏見が繰り返されています。

新型コロナウイルス感染症について正しく知ることで、人権を侵される側の痛みを想像し、差別を繰り返さないことが、私たちに求められているのではないのでしょうか。

この「すてきなまちに」をコロナ差別について正しく知るきっかけとし、家庭、学校、地域等でも話し合い、さらに理解を深める輪を広げましょう。